

令和6年松本市議会6月定例会
市長閉会あいさつ

[6.6.27(木) PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たって、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

当初予算の「肉付け」として編成した6月補正予算は、全会一致で成立をし、デフレからの完全脱却を見据え、今年度、三ガク都のシンカに邁進^{まい}していく上で、大きな原動力となります。

私たちの究極の目標である「市民一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち」の実現に向けて、着実に政策と事業を進めてまいります。

この6月定例会では、4年前に市長に就任した際、前市政時代の方針を見直すことを表明した2つの大型公共事業について、議会の皆様のご了承を得て、前に進めていくことが決まりました。

このうち、市役所新庁舎の建設は、新型コロナへの対応を最優先課題とする状況が続く中で、庁舎の建て替えにとどまらず、市役所の在り方そのものを根本に立ち返って問い直してきました。

改めて振り返りますと、4年という年月は、時代の変化を受け止め、不透明な未来に目を凝らしながら、「市民が集まる市役所から、市民に寄り添う市役所」へ、大きく舵を切るために必要な時間であったと受け止めています。

市民サービスを提供する拠点は、地域づくりセンターや松本駅前にも軸足を移す、各部局が集まる本庁舎は、規模をスリム化して現在の東庁舎敷地に建設する、現在の本庁舎の敷地は、松本城の正門前にふさわしい公共空間として活用する。

私たちは、コロナ禍を経験することを通じて、デジタル化の急速な進展やライフスタイルの転換と真正面から向き合いました。

そして、時を同じくして、松本パルコや井上本店が閉店を決

め、市街地の再設計・再活性に取り組むチャンスが訪れています。

新庁舎の建設で目指す「市民に身近な市役所づくり」は、新しい時代の暮らしや働き方を先取りし、様々な課題を抱えたまちづくりと連動させる視点が欠かせません。

今後は、市役所新庁舎建設特別委員会において、建設基本計画の見直しと具体化に取り組み、幅広い市民の共感と納得を得ながら、着実に事業を前へ進めてまいります。

もう1つの市立病院の移転建設は、前市長の退任直前に鉄工所跡地への移転計画が頓挫したことを受けて、専門者会議の提言を基に、病床数の削減や移設先の選定を柱とする基本計画の見直しに取り組みました。

その後、産科の存続や経営強化の内容を巡り紆余曲折がありましたが、この度の病院事業会計補正予算の可決・成立により、設計工程の最終段階である、実施設計に着手することになりました。

上高地線波田駅前に立地する新病院の建設は、西部地域にとって、フレイル予防を旗印とする地域密着型病院であるとともに、医療を始め交通・買い物・行政・教育といった都市機能の拠点整備につなげることを目指す事業でもあります。

周辺道路や駅前広場の再整備に並行して取り組み、令和9年度末に新たな西部地域の基幹病院として開院できるよう、急ピッチで建設を進めてまいります。

松本市は、夏の到来とともに、これから本格的な観光シーズンを迎えます。去年の観覧者が88万5千人を数えた国宝松本城も、月別では8月に最も多い11万人余りが訪れました。

これまでは、入場券の購入や天守への入場のために、猛暑の中で長時間待つていただく状況が続いていましたが、来月末からは、入場日時を指定してオンラインで購入できる「電子チケット」を導入し、待ち時間の大幅な短縮を図ります。

あわせて、本丸庭園内で入場を待つ人のために設けているテントとミストシャワーを増設し、少しでも涼が取れる環境を整えるように努めてまいります。

電子チケットは、博物館にも導入する予定で、訪れた人たちが

快適に松本のまちを楽しんでいただけるよう、国際文化観光都市にふさわしい受入体制を整備してまいります。

来月12日には、3年ぶり8回目となる、信州・まつもと大歌舞伎が開幕します。

串田和美前総監督の現代的な演出による作品から、今回は内容を一新し、伝統的な歌舞伎舞踊2作品に、落語を題材とした新作歌舞伎を加えた、3つの作品を上演します。

観覧チケットは、今月20日時点で既に予定枚数の97パーセントを販売し、公演を心待ちにしていたファンの期待が、好調な売れ行きにつながっています。

さらに、今年は松本市名誉市民でもある中村勘三郎さんの十三回忌に当たることから、来月14日に松本城本丸庭園で「十八世中村勘三郎を偲ぶ会」を開催します。

素踊り「三番叟」の上演のほか、「勘三郎が愛した街」と題した特別映像やトークショーを通じて、伝統の継承と革新への挑戦を続けた名優を、市民とともに偲ぶ場にしたいと考えています。

もう1つの夏の風物詩、セイジ・オザワ 松本フェスティバルは、8月9日に始まり、2月に小澤征爾総監督が逝去した後、初めての開催となります。

今年のコンサートプログラムは、OMF初の首席客演指揮者に就任した沖澤のどか氏と、30周年記念コンサートで観客を魅了した世界的指揮者、アンドリス・ネルソンス氏を柱に据え、生前の小澤総監督がOMFの未来を託して決定した内容であります。

音楽祭の期間中は、市民とともに音楽祭を育て上げ、「楽都・松本」の名を世界へ発信していただいた功績に対して、感謝と哀悼の意を表すため、市内各所でメモリアルフラッグの掲揚やライトアップを行うほか、美術館と博物館を会場に「記念展」を開催する予定です。

さらに、小澤総監督の誕生日の9月1日に、市民が主体となるメモリアルコンサートを開催し、小澤総監督が遺した数多くの思い出を、大勢の市民の皆さんと分かち合いたいと思います。

結びに、議員の皆様におかれましては、時節柄、健康にご留意

いただくとともに、三ガク都・松本のシンカのために、引き続き
ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。6月定例会閉
会のあいさつといたします。ありがとうございました。

(以 上)